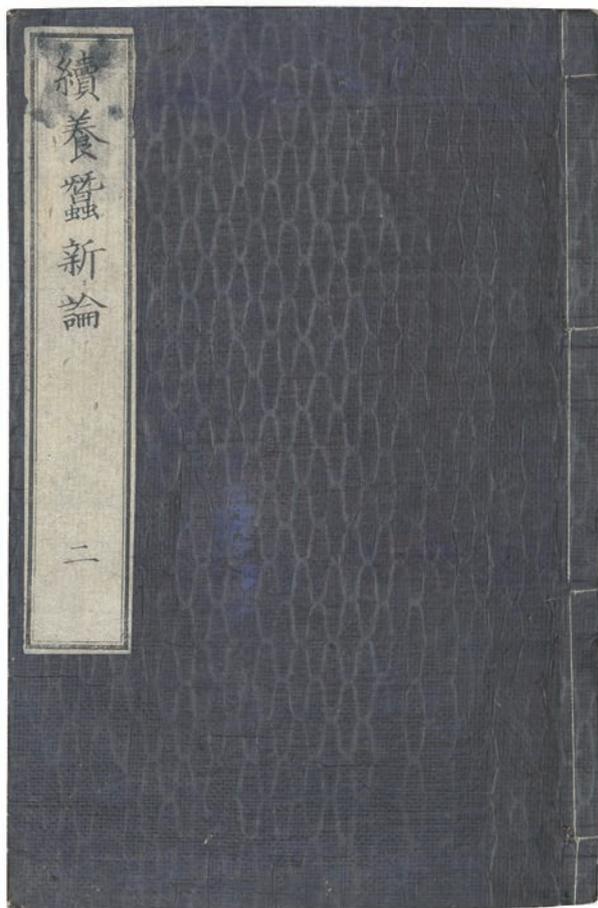


続養蚕新論 二

復刊版



群馬地域文化振興会

續養蠶新論卷之二

上野 田島彌平 著

⊕ 蠶室建築ヲ改正セシ其原因ノ事

蠶室ノ設方ハ何レノ地方ニテモ、舊習ノ説ニハ

カゴヤ

ツクリカタ

トコロ

シキタリ

茅葺家ヲ以テ第一等トシ板葺ハ之ニ次ギ瓦屋

ツツヤ

ハ又之ニ次グ者トシ殊ニ瓦屋ニテハ蠶不熟セ

カヒコガハツヒル

ルモノト思フ弊習ナリシニ予ガ家ニテハ父ノ

幼年ノ頃火災ニ罹リ予ガ十五歳ノ春又火災ニ

コドモ

クサビ

逢ヒタリ乃チ祝融氏ノ患ヲ免カル、ニハ、瓦屋

火、神ツユフ

ニアラズンバ救フノ術ナシト思ヘドモ、瓦屋ハ

養蠶ニ應ゼザルモノト覺ヘ來リシナレバ、養蠶
 ヲ業トスル者何シゾ下等ノ蠶室ヲ作ラシヤト
 頗ブル苦心ヲナセリ、蓋シ瓦屋ハ炎暑ノ時空氣
 鬱閉セル故ニ惡シキト云フナルベシ」安政丙辰
 年十一月瓦屋ノ納屋桁行十二間梁間四間ノ一
 棟ヲ建築シ其階上ニ相州邊ノ如クニ、平ラカニ
 筵ヲシキ、蠶ヲ並列ナラベノ養育スルニ、稚蠶ノ最初ハ
 無事ニ生長スレドモ、大眠起ニナリ四五日ヲ過
 ギ成繭ノ期ニ至リ、竹ノ節ノ如ク、俗ニ節蠶トテ
 肥大ニナリテ、既ニマブシニ入ルレバ、流レ蠶ト

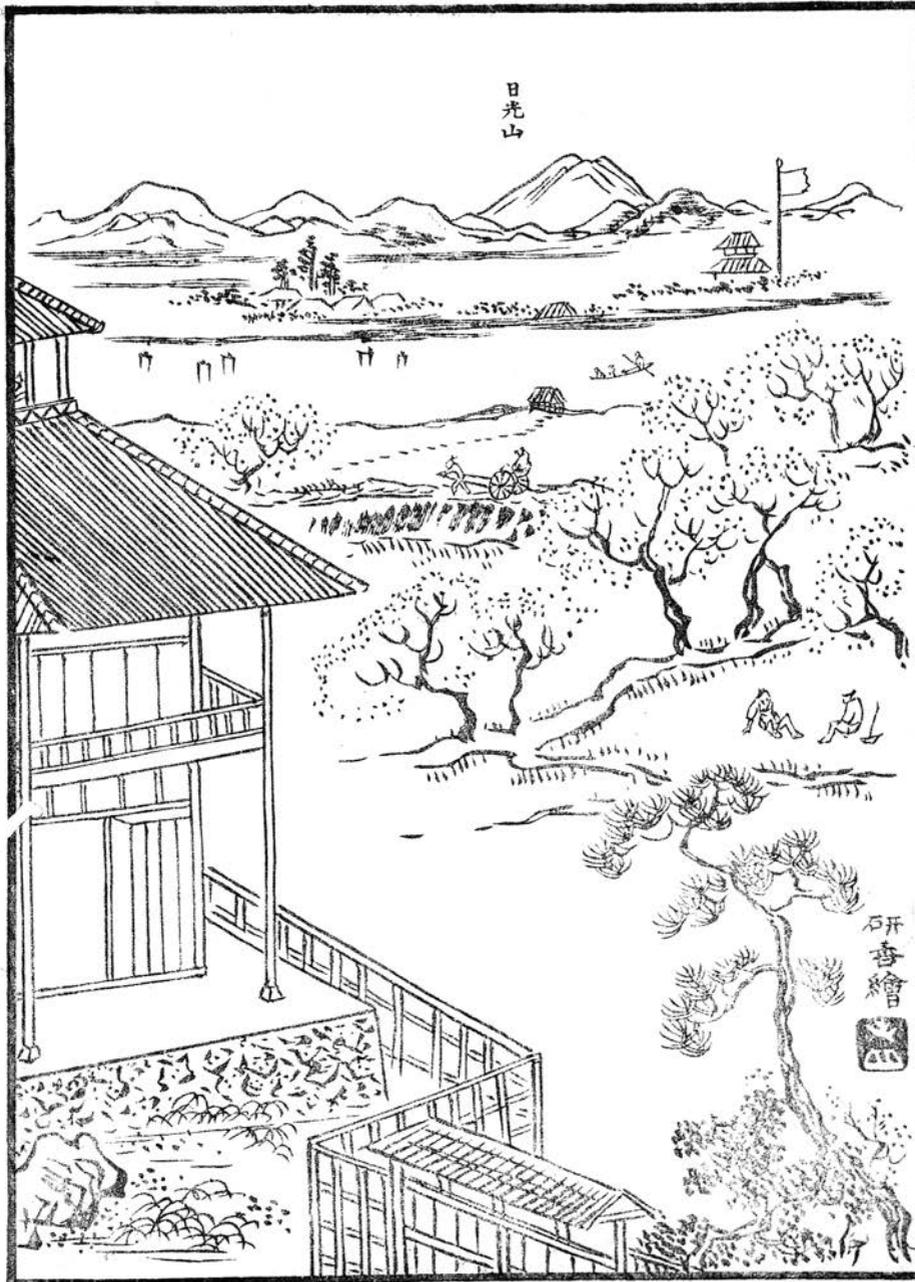
ニワヤスニ

テ腐敗レテ繭ヲ成サズル蠶多カリレ故豫防ノ
策ヲ考ヘ活物ハ空氣流動ヲ能クスルニ如カズ
ト心付キ其翌歲屋上棟ノ中央、四尺ニ三尺ノ
竈三箇所ヲ穿テテ養蠶ヲ試験セシニ、果レテ腐
敗蠶俗ニ節蠶ト云フ一頭モナカリシナリ、故ニソノ翌
歳ニ至リ猶蠶室ノ階上四方ノ壁ヲ破リテ晝夜
共竈戸ヲ明ケ放チテ養蠶セシニ、從前ノ患ヒ少
シモナク悉ク豐熟セリ、之レニ由テ蠶室ヲ改正
セシトヲ謀リ、加アツルフルニ養蠶ノ適宜ニハ屋上ノ
棟ヲ一重高ク圍、如クセントヲ考ヘ、文久壬戌

ノ年八月ヨリ瓦屋ノ經營ヲ始メ、屋上ニ窓戸ヲ
設ケテ三階トシ專ラ空氣ウツクリ流通自在ナラン事ヲ
計レリ、居宅ノ二階モ養蠶ニ便利ナル一工夫ヲ
ナシ一大蠶室ヲ建築セリ、一郷ノ蠶家モ亦皆之
レニ倣フテ改正ス、斯ノ如ク改正セシヨリ以來
ハ他ノ養蠶ハ氣候ノ變化ニテ不熟スト雖モ、余
ガ方法ヲ以テ養ヒタルニ於テハ何ノ患ヒモナ
シ乃チ知ル蠶室ノ造營ハ空氣凝滯ナキヤウニ
心ヲ用ユルヲ以テ第一ノ目途トスベキヲ、近
來上野武藏利根川ノ兩岬余ガ郷里邊ニテ養蠶

ヲ業トスルモノ住居或ハ蠶室ヲ造營スルニハ
圖ノ如ク上等ノ蠶室ハ瓦屋トシ棟ヲ通シテ空
氣流動ノ爲メニ窓ヲ明ク中等下等ハ家根ノ大
小ヲ計リ一箇所ノ抜氣窓ヲ付ルアリ或ハ二箇
所三箇所窓ヲ穿ツアリテ屋上ニ窓戸ナケレバ、
村々戸々蠶室トハ思ハザル事ニナリ、特ニ兩三
年以來ハ棟ヲ通シテキヌキヨド抜氣窓ヲ付タル瓦屋ヲ上
等ノ蠶室トスル説ニ確定セリ、此ハ今ヨリ十四
五年以前、余ガ發明經驗セシヨリ實ニ始レリ、
元治甲子年余ガ郷友栗田源十郎ナル者、養蠶ニ

日光山

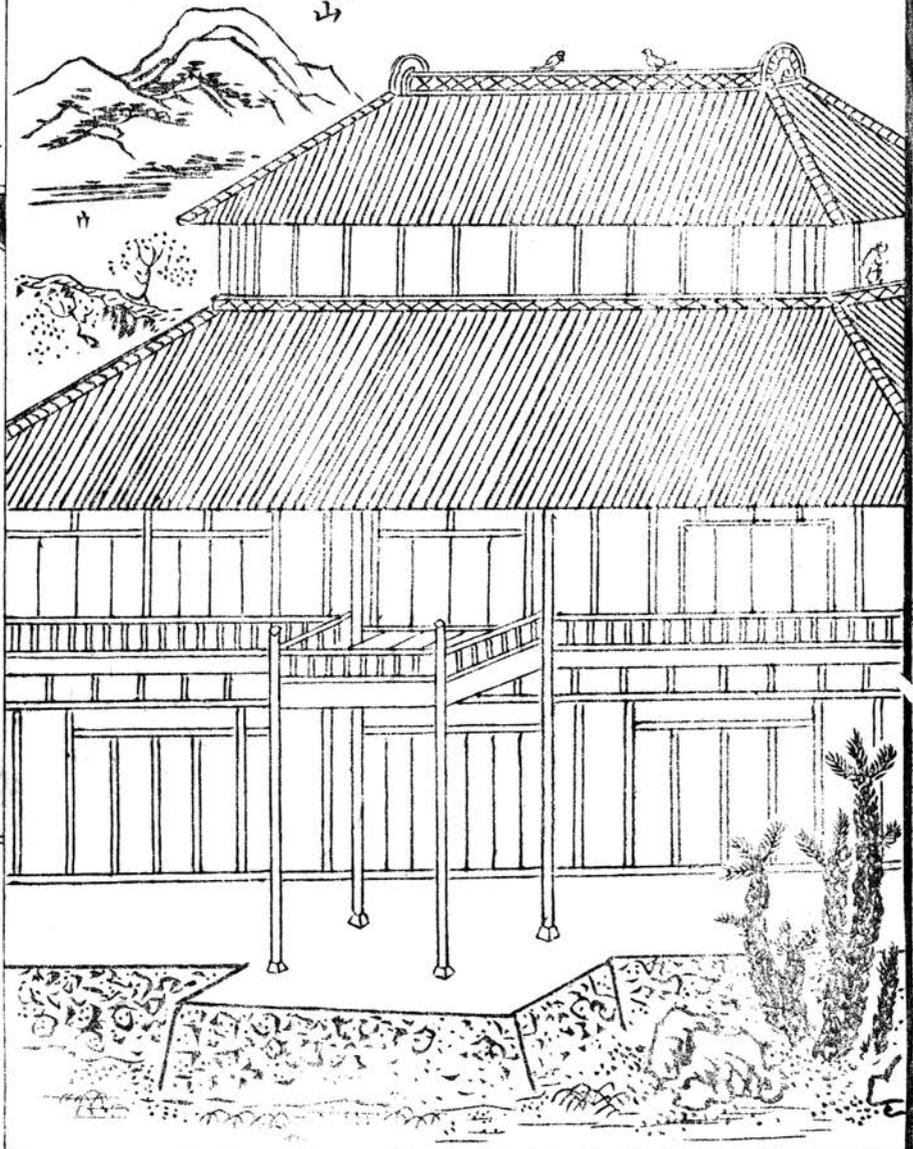


研香繪



新築蠶室之圖

赤城山



新築蠶室之圖
赤城山
田
六
五
四
三
二
一